**塩原と文学のつながり**

塩原を訪れる観光客の数は、新しい道路が開通した1884年に劇的に増加し、その後1886年に西那須野駅への鉄道が敷かれた。1880年代後半から1930年初頭にかけて、多くの優れた文学者たちが頻繁に塩原を訪れた。その中には、詩人の与謝野晶子（1878～1942年）、小説家の夏目漱石（1867～1916年）、谷崎潤一郎（1886～1965年）がいた。人里離れた環境が、温泉の歴史、雰囲気、健康効果と相まって、彼らの創造的なエネルギーを刺激したようで、それぞれの作家が滞在中に本の執筆を完成させている。塩原のいたるところに、これらの作家に関する情報が刻まれた石碑が数多くある。それらの場所は、地図上に赤い点で示されている。